

で減免対象としているが、既存のクラブについては、電気料相当分をご負担いただくとの説明をしてきた。確かにそこで格差は生じるものの、本来、電気料は受益者が実費負担すべきものであり、現状は、社会体育施設の維持管理費と合わせて、行政として莫大な費用を負担している。そのため、既存のクラブについては、今後、電気料の基本額の2分の1相当を負担いただく旨、一貫して説明をしてきており、ご理解をいただきたい。ただし、社会体育の振興のため、施設使用料については、今後も減免の方向で考えている。【教育部長】

**Q** 今後も、災害時に阿蘇西小学校体育館が避難所になると思われるが、必要最低限の飲料水と発電機(電灯用)の確保をお願いしたい。

**A** 発電機を全ての避難所に常設するとした場合、メンテナンスや費用の関係もあり難しい。飲料水も、長期間置いておくことは適当ではない。今後も必要に応じ

て適宜職員が避難所に設置する方向で考えている。また、市民の方々も、最低限の食料・飲料水・寝具を準備するようお願いしたい。【総務部長】

**Q** 車帰からの石を通る市道では、先般、白線が消えている箇所について、国及び市に依頼し業者のボラントリーア対応も含め白線を引いてもらった。その際に、車帰では側溝の土砂を撤去してもらっているが、的石では対応できていない。以前は区民で対応していたが、交通量が多くなって危なくて対応できない状況(先般も沿線の草刈り中に通行車両に小石が飛び損傷を与え、保険でも対応できなかった)である。本路線は、県道並みの交通量があるため、北側復旧ルートが開通するまで県が責任を持って県道並みの管理を行って欲しい。

**A** 本路線(市道車帰的石線)の通行量が多くなっていることは十分認識している。県道のメンテナンスは、県、市道のメンテナンスは阿蘇市という役割分担を基本

としながらも、市と相談し、県と市でどういったことができるのかを検討していきたい。【県振興局土木部長】

**A** 側溝土砂の件については、近日中に現場確認を行い、対応を協議させていただきたい。【土木部長】

内牧地区

**Q** 熊本市から譲渡を受けた南宮原の青少年教育キャンプ場の今後の利活用について、市はどのように検討されているのか。

**A** 熊本市が本市に教育キャンプ場を譲渡した理由としては、山腹崩壊危険区域下流にあり、熊本地震の被災を受け、引き続き利用することは困難であるとの見解から相談を受けたことが始まりである。現時点において、いかに利活用するかは決まっていないうが、最低限の管理を行い、庁内の検討会議において、継続した利活用のための協議を行っている。【教育部長】

**Q** 成川橋の復旧工事は未だ完了しておらず、当初計画より1年半ほど延びている。設計変更ばかりが続いており、地元では半ば諦めている。困っていることは、集落内を通行する車両が増え、非常に危ない。また、完成しても通行には警察の許可が出ないようなことも聞いているがいかがか。

**A** 県からの説明によると、11月上旬には上部工が終わり、11月中旬には舗装を終え、11月末までには工事を終えたいとのことである。【経済部長】

**Q** 宇土区では、3年間、地域のごみ問題に取り組み、一昨年、分別が不正確で収集できなかったなどの違反ごみが約270袋であったが、本年度(現在まで)は約2122袋(年度末見込みは約3040袋)であり、成果が出ている。聞き取りしたところ、ごみの分別の詳細が理解できていない人が多かったため、現地に掲示物を設置したり、各世帯へ配布物を配ったり、防犯

カメラを設置するなどの対応が結果に結びついたと考える。また、今年度、阿蘇市が配った「ごみカレンダー」は、非常に見にくく不評であるため、住民が間違わないように改善してほしい。

**A** 各行政区において、ごみ出しルールの徹底については、苦勞されていると伺っている。市では、ごみの分別などについて出前講座も行っており、必要であれば市民課にお問い合わせいただきたい。また、分かりやすい「ごみ出しカレンダー」の作成についても、廃棄物対策協議



掲示物で啓発している  
宇土区のごみステーション



堆積物を除去した黒川と古恵川の合流地点

会に区長さんも参加いただいているため、色々なご意見を参考にしながら引き続き検討していきたい。【市民部長】

### 古城地区

**Q** 古城地区の玄関口で合流地点では、川の中に竹山ができ、川幅が狭くなっている。県に堆積物の除去を依頼し、梅雨明けに川底をさらう工事をしてもらい、川幅が広く景観も良くなり感謝しているが、古城保育園（古城郵便局前の古恵川上流付近は堆積物が目立ちはじめているので、除去をお願いしたい。

積物が目立ちはじめているので、除去をお願いしたい。

**A** 河川掘削について、さまざまな要望がある中、予算の都合上叶えられない箇所があるのが実状である。前回、古城郵便局から下流方面の掘削を行ったので、本年度はもう少し下流の方を掘削する予定で準備を進めているが、要望があった箇所を現地確認したうえで、支障があるようであれば、対応を検討していきたいと思う。できるだけ要望に答えたいとは思っているが、少ない予算の中で全体的に取り組んでいるため、ご了承願いたい。【県振興局土木部工務一課長】

どものPTSD（心的外傷後ストレス）をきっかけに、大病院から第2・第4水曜の月2回来ていただき、発達障がいの子どもの相談を受けている。当初は診療時間が短かったが、今月から終日診療時間を設けている。【医療センター事務部長】

### 中通地区

**Q** 現在、阿蘇市では農業取組みを進めているのか？特に、新規就農者に対する助成事業や面積要件の緩和など取り組みやすい環境整備をお願いしたい。

**A** 現在は、農地の災害復旧事業を優先的に実施している。その他は、施設園芸を中心に経営体育成として機械導入事業など、まずは、震災前の状態に戻そうとしている。また、旧阿蘇町の農地が大きく被災したことから、こちらを中心に復旧事業を実施しているところである。新規就農者に対しては、5年間の支

援制度があり、単身者には年間150万円、妻帯者であれば年間225万円の助成制度がある。また、トマト・アスパラガスを中心に指導者も紹介し、専門的な指導をしてもらっている。さらに、その指導者を通して、農地の貸借の支援もしている。現在、トマトを中心に新規就農者が増え、定着しているが、農地の購入となれば時間もかかるため、JAとも協力しながら、より推進していきたい。【経済部長】

**Q** 今後の中通小学校の跡地利用をどのように考えているのか？また、グラウンドの使用回数が少ないため、草が生い茂っており、年に3〜4回は草刈りをしてほしい。

**A** 中通体育館については、現在は、社会体育施設として色々なスポーツ関係で利用されており、グラウンドもスポーツ関係をはじめ、「ひかり幼稚園」などが利用されているため、体育館とグラウンドについては、これまでどおり、社会教育（体育）施設として開放を考えている。校舎については、阿蘇市全体の不登校生徒・児童の対策として活用している。また、低学年棟は世界文化遺産推進室の事務所が役原から移転する予定である。このように、校舎についても教育委員会管轄の施設として利用していく予定である。グラウンドについては、利用頻度が若干低いため、夏場に草が伸びるが、これまでどおり教育委員会事務局で草刈りや除草など適切に対応していきたい。また、各地域にスポーツ推進委員さんがいるた



社会体育施設として開放している中通体育館とグラウンド

**Q** 発達障がいをお持ちの方が受診できる専門医がいなく、熊本市内まで行って受診しているため、阿蘇市内にいれば良いと思う。

**A** 専門外来ということから4人の先生に非常勤で来ていただいている。その中の1人の専門医が、地震後の子

で、熊本大学附属病院から4人の先生に非常勤で来ていただいている。その中の1人の専門医が、地震後の子

で、熊本大学附属病院から4人の先生に非常勤で来ていただいている。その中の1人の専門医が、地震後の子

め、中通グラウンドをより活発に利用してもらおうよう推進していきたい。【教育部長】

坂梨地区

**Q** 坂梨地区は、避難所が一の宮中学校に指定されており、坂梨地区からは下流域になる。過去の水害の経験から、避難中に被害に遭わないか心配している。旧坂梨小学校校舎は、耐震基準も満たしており、水害だけでなく地震時にも耐え得る。地域で自主的に開設できる避難所として使えないか。

**A** 警報等が発表された場合、自主避難所として現在市内4施設を開設している。区長、公民館などと協力し、身近で安全が確保できる場所、地域が自主的に避難所を開設することは、地域の防災能力向上の観点からもぜひお願いしたい。【総務部長】

**A** 旧坂梨小学校校舎は、京都大学火山研究所に対し、3年間貸与している

が、校舎北側の低学年棟は使用しておらず、自主避難所としての利用は可能である。【教育部長】

宮地地区

**Q** 仙酔峡道路の復旧の見込みはいかがか。

**A** 本路線は、震災以降、長期間通行止めとなっているが、工期は、本年中である。なお、平成28年の中岳火口の



H30.11.20 現在

仙酔峡道路は今年度末の開通を目指している

爆発的噴火の影響もあり、新たにガードレールや防護柵が損傷し、現在、発注段階にある。また、国の直轄砂防工事等もあるため、最終的に皆さん方が通行できるようにするのは、今年度末になると考える。来年のつっし祭りまでには、安全に通行できるように工事を進めている。【土木部長】

**Q** 未来を担う阿蘇市の子ども達のために、農業、工業を含めた新しい産業や企業誘致の構想はあるか。

**A** 熊本地震後、誘致企業等と相談しているが、通勤アクセスの悪化で撤退まで検討されていた。これを受けて、積雪時の通勤困難時は、阿蘇市内に宿泊ができるような取組みも実施してきた。また、二重峠の道路改善についても企業と市が一緒になって国土交通省に要望してきた。企業誘致は、既存の誘致企業の維持で精一杯であり、近隣の津町町の工業団地も空きがあるような現状にあり、新規の誘致は難しい状況である。阿蘇は、農業と観光の資源が

あることから、この産業に重点を置く取組みを行っているが、昨年までに25人の新規就農研修者を受け入れ、そのうち平成30年現在で、16人の方が阿蘇市新規就農者となっている。【経済部長】

**A** 働く場所の確保が重要である。と認識している。ただし、水害や地震被害に遭った阿蘇市に対し、企業側も事情(輸送・人材)があるため、新たな立地は難しい。よって、既にある企業と関連する衛星企業に残っていたり、また、直接お願いしている。また、ハード的な企業誘致だけではなく、ソフト面の企業誘致施策として、大手企業にも観光地域づくり面の支援・協力を願っている。【市長】

**Q** JR豊肥本線の復旧見通しはいかがか。

**A** 住民生活にとってたいへん重要であるため、県の協力を得て、阿蘇市町村会、同議長会と一緒に、JRR九州本社に復旧の協議を行った結果、時期は断言で

きないが必ずJRR九州の手で復旧させることを確認している。また、議長からも自治体には過度な費用負担がないようにと念を押された。現在、津町に復旧事務所が設置され、損傷の大きい赤水駅から阿蘇駅までを修復中である。ことを確認している。今後、こういった進捗状況を収集し、皆さんに情報提供していきたい。【市長】

**Q** 阿蘇神社を観光と結び付ける計画はないのか。現在、大分からの道路整備が進んでおり、阿蘇市では過型の観光ますます進むのではないのか。

**A** 北側復旧ルートや、滝室坂トンネル、農地の復旧、阿蘇神社の復旧などが進んでいる。東京オリンピック開催の2020年には、北側復旧ルートが開通することから、副市長を中心として本ルート開通の時期を目標とした取組みを企画立案・発信し、将来の阿蘇市を創り上げていきたい。【市長】